

視 察 調 査 報 告 書

委 員 会 名	議会広報委員会
参 加 者	委員長 野島 さつき 副委員長 加藤 義幸 委 員 柳 賢一 中根 善明 野本 篤 近藤 敏浩 井町 圭孝 鈴木 静男 三宅 健司
視 察 日 時	令和6年5月16日（木）
視察先・概要	岡山県岡山市 人口：698,671人 世帯数：340,016世帯 面積：789.95 k m ²
視 察 項 目	議会広報誌について
視 察 概 要	1 議会広報誌の概要 (1) 発行目的 市議会の活動状況に関する情報を広く市民に提供することにより、市民の市議会に対する関心と理解をより高めるため、議会は独自に市議会広報紙を発行する。 (2) 単独発行の移行時期 平成9年4月1日 ただし、平成8年12月定例会に係る試行版を発行する。 (3) 発行機関 岡山市議会とする。 (4) 名称 「おかやま市議会だより」とする。 (5) 発行回数と時期 ア 定期号 ・年4回、定例会ごとにその内容を広報するために発行する。 ・臨時号を発行しない臨時会の記事は、直近の定期号に掲載する。 イ 臨時号 ・議長及び議会運営委員会が特に必要があると認めたときに発行する。 (6) 編集の基本方針 ・市議会の審議内容、活動状況を中心に編集する。 ・編集に当たっては、常に客観性の保持に努め、中立公正な立場を堅持する。風聞、個人の身上に関する情報等は記載しない。 ・分かりやすい表記を使い、親しまれる紙面構成とする。 ・市広報紙の広報記事、新聞、テレビ等の報道内容に意を払うものとする。 (7) 掲載事項 ・本会議の審議状況、議決結果等に関する事項 ・請願、陳情に関する事項

	・意見書、決議に関する事項 ・本会議の審議日程、委員会の開催状況、議会の主要行事等に関する事項 ・議会の構成、人事等に関する事項 ・議会の役割、運営の仕組み等の周知に関する事項 ・その他発行目的を達成するために必要な事項 (8) 編集体制 ・編集は議会運営委員会が行う。 ・事務局に広報紙編集会議を設ける。(事務局長に一任) ・取材、編集整理は事務局調査課があたる。周知啓発、企画記事等については、局内関係課が協力するものとする。 (9) 編集要領 市議会広報紙の発行目的に従い、議会運営委員会が編集内容を決定する。ただし、次に掲げる記事については、各項記載のとおりとする。 ア 会派代表質問の記事 ・会派代表質問の概要（質問・答弁の要旨）を掲載する。 ・会派ごとにあてる記事のスペースは、会派所属議員数にほぼ比例したスペースとする。(この場合、会派共通の基本スペースに議員数を比例させたスペースを加える方式をとる) ・割り付けの順序は、質問した会派の順とする。 ・いずれの質問を掲載するかは、会派の意向を確認して議会運営委員会が決定する。 ・会派名は表示し、質問した議員の氏名は表示しない。 ・代表質問にあてる頁数は4頁相当を目安とする。 イ 一般質問の記事 ・一般質問の概要（質問・答弁の要旨）を掲載する。 ・いずれの質問を掲載するかは、個人質問した議員の総数、質問総項目数、一般質問にあてられる頁数等を勘案して、議会運営委員会が決定する。 ・記事は、テーマごとにまとめおおむね行政分野に沿って割り付ける。 ・質問した議員の氏名、所属する会派名は表示しない。 ウ その他の発言記事 ・緊急質問の要旨は、重要度、内容により掲載するかしないかを決める。 ・委員長報告の要旨は、報告した案件の重要度、内容により掲載するかしないかを決める。 ・討論の内容は原則として掲載しない。 (10) 規格、頁数等 ・判型 市広報に準じ、A4判とする。 ・頁数 いずれの号も4頁から12頁の間で発行する。 ・印刷色 いずれの号もフルカラーで印刷する。
--	--

	(11) 録音等による声の議会広報の発行 (12) 点字版議会広報の発行 (13) 発行部数 ・おかやま市議会だよりは、市広報紙の発行部数に準ずる。 ・声の市議会だより、議会だより点字版は市広報紙の発行部数に準ずる。 (14) 配付先と配付方法 市広報紙に準ずる。 2 市議会だよりの表紙写真の公募について (1) 応募スケジュール スケジュールは設けず常時募集している。 (2) 周知方法 ホームページや議会だよりで周知している。 (3) 応募基準 岡山市内で撮影されたもの、他で発表されていないもの。 市外在住者でも応募可能。 (4) 応募者数 令和５年度：18件 令和４年度：９件 過去５年分で採用されていない約20件をストックとして保有。 古すぎるものは風景が変わったりして使えなくなる。 (5) 応募方法 写真はメールでデータにより提出 (6) 応募者への謝礼、記念式 謝礼や記念品はなく、掲載された議会だよりと手紙を送っている。 (7) 苦労している点 応募者数が少ないこと、一度採用された方が繰り返し応募されることが多く特定の方からの応募が多いこと。 3 市議会だよりの編集で工夫している点 ・イラスト等を入れて文字ばかりにしないようにしている。 ・一般質問について市民が広く関心を寄せているもの等を掲載するようにしている。 4 タイトルを「GIKAI-STYLE 岡山市議会だより」から「おかやま市議会だより」に変更した目的と経緯 市民、特に高齢者の方に馴染みやすい名前に変えた方がいいのではないかとの意見が出て、議会運営委員会で検討して変更となった。 5 現状の課題 ・一般質問の記事等を限られたスペースでまとめることに苦労する。 ・定例会ごとに市議会テレビを放送しているが視聴率が低い。
所 感 ※視察しての感	・岡山市の議会広報誌は一般質問のみ行われる議会月は８ページしかなく、すべての質問者の記事が載せられないのはいかがなものかと感じた。ページ数を増やし、全ての質問者の記事を載せるべきと思った。

想や岡崎市への
提言など

表紙写真は毎回公募をしており、一定の評価はできるが、投稿者が偏るなどの弊害も出ているようで、写真だけでなく、絵画、彫刻等の作品を写真に撮って載せるのも一案と考える。

- ・市議会だよりの表紙写真の公募について、市外の方でも岡山市の写真であれば公募できるとのことであり、読み手参加型の表紙作成の新たなスタイルは、大いに参考にすべきと考える。公募から候補写真のストック数について聞いたところ、表紙写真は3案ほどストックされつつ、新規公募を募っているとのこと、表紙写真の内容により公募数に影響が出るため、安定した公募数を確保することが課題とのことである。市民への配付方法も特徴的であり、市議会だよりと市政だよりをのりづけし一緒に配付することでコスト削減につなげている。その際、広告主へは、のりづけにより見えづらいものとなる旨を理解してもらった上で広告を出してもらっているとのことである。市議会だよりに、議員の個人名は、公平性を保つという観点で記載しないルールとしている点も、特徴的であると感じた。表紙写真は風景を使用されているものが多く、サブタイトルは記載しないスタイルで進められており、本市においても、サブタイトルありきでなく、なしのスタイルも一考すべきであると感じた。メインタイトルについて、「GIKAI-STYLE 岡山市議会だより」から「おかやま市議会だより」に変更されて、表紙イメージが刷新されているところについて、もともとの GIKAI-STYLE というキーワードは、洗練されて時流に沿っているように感じ、本市の表紙写真の選定方法や内容を変更する際、タイトルについても一考すべきと考える。
- ・岡山市の議会広報の編集を視察してきた。議会だよりの表紙の写真を市民の皆さんから募集しているというところが先進的であった。風景写真が中心にはなるが、市民の皆さんの素敵な写真が議会だよりの表紙になるということで、当初はたくさんの方からの応募があった。応募してくる写真はどれも素敵な写真であるが、時期的に掲載できていないものもたくさんあるということであった。特に報酬もなく応募してくれる方がいるのはすごいことだと考える。現状の課題は写真を応募してくれる人が偏っているということであった。それに伴って選ぶ写真の候補が減っている、過去のストックがあるが、これからは減っていく一方になる可能性があることが課題となっているということである。
本市の場合は議員が表紙の撮影をしているが、公募も含めて写真だけではなく、色々な作品を表紙に掲載していけるとよいと考える。
- ・議会広報誌の表紙の写真を市民からの公募としている。条件は岡山市内にある風景としており、かなりの力作が応募されていた。ただ、あまりに写真のレベルが高くなると応募者が減り、採用に偏りが出てしまうのを懸念する。広報の表紙は手にとってもらうためにも重要なポイントである。市民からの写真を活用することなら、スマートフォン等で撮った程度のもので良いのではと考える。市民参加型という考え方は、本市議会でも検討すべきと考える。編集について興味深いのは、議員に

よる一般質問の内容について発言者の氏名を記載しないというものであった。公平性を重視しているということであったが、議会広報誌で議員個人の主張やPRが過度になることを抑制するものかと受け止めたが、どの議員がどのような課題意識をもっているかが分からない編集になっていることに疑問を感じた。

- ・岡山市は議会広報に関して非常に慎重であるイメージを受けた。視察における説明の際使用した資料が、「岡山市議会広報誌発行規定」や「広報誌に関する議会運営委員会の確認事項」であったことからもうかがえる。議員間露出度の公平性においても慎重さがうかがえる。紙面に載せる一般質問や代表質問においても質問議員が分かりにくいように配慮するなど、徹底ぶりが垣間見える。表紙の写真を公募するなど市民の方に親しんでもらう努力はしているようであるが、同時にのりで貼り付け発行する市政だよりの表紙や構成などに比べ堅い印象は否めない。前日の和歌山市と比較する感想を求められたなら真逆と答えてしまう。それぞれの市における事情に鑑み、どちらが優れているとは言えないと思う。市政だよりと議会だよりをのりづけして配る方法で配送コストを下げていることは一考の価値があると思う。
- ・岡山市議会では、議会だよりの表紙写真を公募していることが特徴の一つであるが、応募数は少なく苦戦している様子が感じられた。ただし、非常に面白い取り組みであり、本市の場合は、#今日も岡崎などのインスタグラムの写真と連携ができれば、本市の魅力発信にも大きく寄与できると考える。その他にも、市内の学校や活動家に写真や絵画の応募を促しても面白くなりそうだと感じており、岡山市議会の取り組みは大変参考になった。
- ・一般質問の取り扱いにおいて、紙面都合上の判断で事務局編集者が時節時期的に市政に適した内容を選出して掲載しているようで驚いた。あくまでも議会の中の活動を広報するといった姿勢が理解できた。本委員会もよく考えねばと感じた。表紙写真の公募については、広報誌で募集するも時節時期に合った写真の応募は少なく、また、一定の応募者に固まってしまう現状もあり苦慮されながらも実施している。今後の本議会広報誌においては写真のみならず絵画や企画ポスターなどを幅広く公募していくことも検討する必要があると感じた。
- ・「市民のひろば」と「おかやま市議会だより」を読んでもらうためにのりづけされて一体となって配付されていることに斬新な感じを受けた。更に代表質問や一般質問を行った議員名を表示しないことにも驚いた。また、おかやま市議会だよりのタイトルについて、一時期ではあるが「GIKAI-STYLE」としていたことはセンスの良さを感じた。これまでの形や作り方にこだわることなく、新しい発想・新しい感覚で物事を考えることも必要である。本市も議会だよりの表紙写真とタイトルを決めるにあたり頭を悩ませているが、表紙写真を市民から公募することはぜひ試みる価値があると思う。本市においても市民に親しみやすく分かりや

	すいことを念頭に自由な発想をもって取り組んでいきたい。
委員長の総括	表紙写真の公募について、常時募集しているものの中から、季節に見合ったものを採用しているとのことであったが、時期によりばらつきがあり、苦労している点も感じられた。学校の写真部や、地域の写真教室などにも声をかけているそうだが、なかなか難しいとのことである。本市にもいくつかの写真クラブ等の団体があるので、協力してもらうことは可能なのかと思った。また、本市で養成した「岡崎カメラ」もあるので、公募について検討してみることも可能だと考える。